



BLX

ワイヤレスシステム

Online user guide for Shure BLX wireless system.
Version: 4.1 (2021-F)

Table of Contents

BLX ワイヤレスシステム	3	受信機 (ロック/ロック解除)	10
安全のための重要注意事項	3	ワイヤレスシステムの性能を向上させるためのヒント	11
システムの構成	4	良好なサウンドを得るには	11
クイックスタートガイド	4	マイクロホンの正しい持ち方	11
機能	5	ヘッドウォーンマイクロホンの装着	11
フロントパネル	6	ゲインの調整	12
背面パネル	6	BLX1	12
BLX1	7	BLX2	13
BLX2	7	電池	13
単一のシステムセットアップ	8	ボディパック型送信機の取付方法	14
送信機グループとチャンネルを設定する	9	電源オフ	14
グループ (文字)	9	識別キャップの取り外しと取り付け	14
チャンネル (番号)	9	トラブルシューティング	15
複数システムの設定	9	仕様	16
受信機グループとチャンネルを手動で設定	10	認証	19
グループ (文字)	10	重要な製品情報	19
チャンネル (番号)	10	ライセンスについて	19
操作部のロックおよびロック解除	10	Information to the user	20
送信機 (ロック/ロック解除)	10	周波数帯域および送信機出力	20

BLX ワイヤレスシステム

安全のための重要注意事項

1. この説明書をお読みください。
2. この説明書を保管しておいてください。
3. 警告事項すべてに留意してください。
4. すべての指示に従ってください。
5. この製品は水の近くで使用しないでください。
6. 掃除は乾いた布でから拭きするだけにしてください。
7. 通風口を塞がないようにしてください。十分な換気ができるよう余裕を持たせ、メーカーの指示に従って設置してください。
8. 火、ラジエーターや暖房送風口、ストーブ、その他、熱を発生する機器 (アンプなど) の近くには設置しないでください。火が出る物を製品の上に置かないでください。
9. 有極プラグやアース付きプラグは安全のために用いられていますので、正しく接続してください。有極プラグは、2本のブレードのうち一方が幅広になっています。アース付きプラグは2本のブレードの他に、3本目のアース端子がついています。幅広のブレードや3本目の棒は、安全のためのものです。これらのプラグがコンセントの差し込み口に合わない場合は、電気工事業者に相談し、コンセントを交換してもらってください。
10. 電源コードは特にプラグ差し込み部分、延長コード、機器から出ている部分において、引っかかって抜けたり挟まれたりしないように保護してください。
11. アタッチメントや付属品は必ずメーカー指定のものをご利用ください。
12. カートやスタンド、三脚、ブラケット、テーブル等はメーカー指定のものか、この装置用に販売されているものを必ずご利用ください。カートに装置を載せて動かす際はつかけて怪我をしないよう注意してください。



13. 雷を伴う嵐の際、または長期間使用しない場合は、プラグをコンセントから抜いてください。
14. 整備の際は、資格のある整備担当者に必ずご相談ください。電源コードやプラグの損傷、液体や異物が装置内に入り込んだ場合、装置が雨や湿気に曝された場合、正常に作動しない場合、装置を落とした場合など、装置が何らかの状態で損傷した場合は、整備が必要です。
15. 水滴や水しぶきに曝さないでください。液体の入った花瓶などを装置の上に置かないでください。
16. MAINSプラグまたはアプライアンスカップラーが使用できる状態にしておいてください。
17. 装置の空気伝播音は70 dB (A) を超えません。
18. クラスI構造の装置は保護接地接続のある主電源の壁コンセントに接続してください。
19. 火災や感電の危険を避けるため、本機器は雨や湿気のある場所にさらさないでください。
20. 本製品の改造は試みしないでください。けがや製品の故障の原因となる可能性があります。
21. 本製品は指定された動作温度範囲内で使用してください。

	この記号は、この装置内に感電の危険性のある高電圧があることを示します。
	この記号は、重要な操作・メンテナンスの説明が装置添付の文書に記載されていることを示します。

警告：誤った電池と交換された場合、爆発する恐れがあります。単3形電池のみを使用してください。

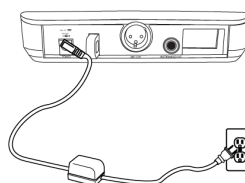
システムの構成

注: お持ちのシステムには以下のコンポーネントの組み合わせが付属しています。

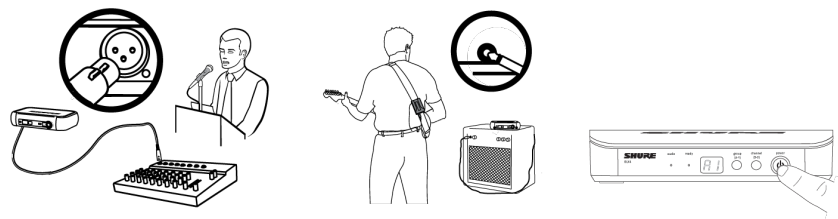
- BLX1ボディパック型送信機
- BLX2ハンドヘルド型送信機 (SM58、BETA58A、PG58から選択)
- BLX4ワイヤレス受信機
- BLX88デュアルワイヤレス受信機
- PS24電源装置
- ラベリアマイクロホン (PG185、WL185、WL93から選択)
- ヘッドウォーンマイクロホン (PG30、SM31FH、SM35から選択)
- MX153イヤセットマイクロホン
- 楽器用マイクロホン (BETA98H/C)
- ギターケーブル (WA302)

クイックスタートガイド

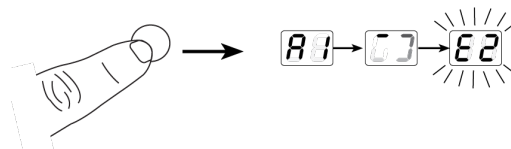
1. 受信機を電源に接続します。



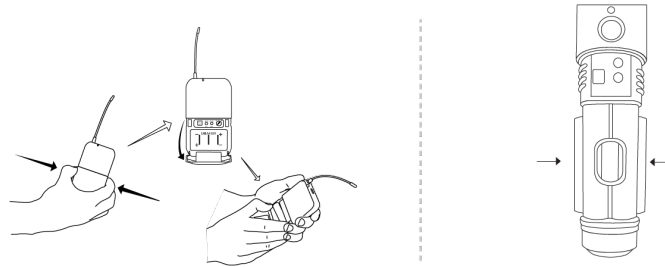
2. 受信機をミキサーまたはアンプに接続します。電源ボタンを押して受信機をオンにします。



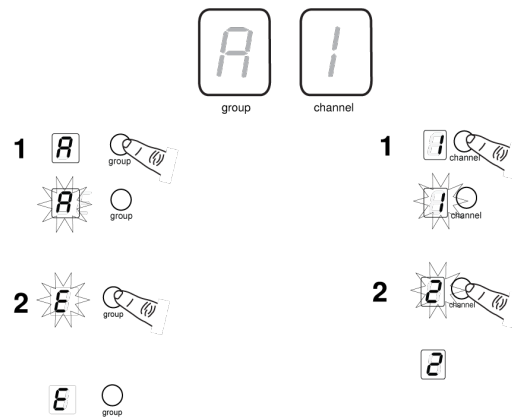
2. 受信機のグループボタンを押して、グループスキャンを実行します。



3. 1. 送信機に電池を入れ、オンにします。

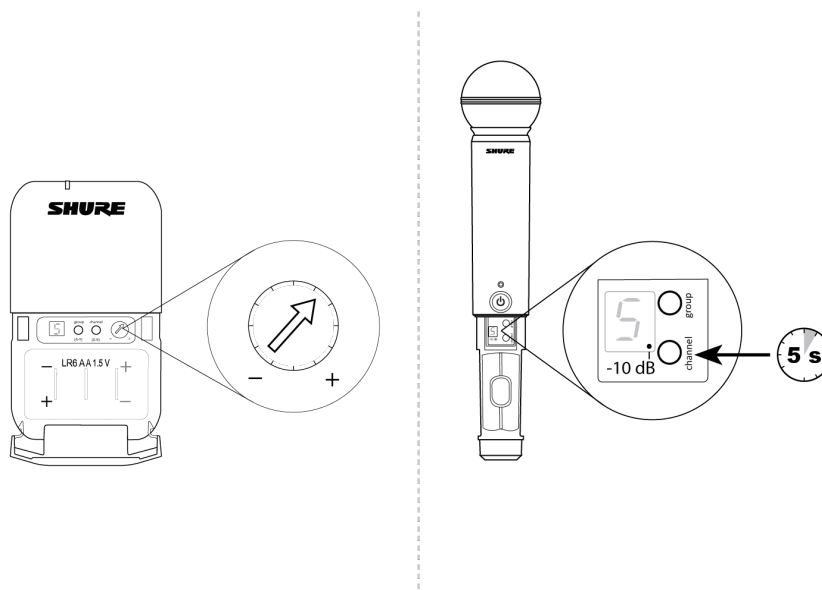


2. 送信機で、グループとチャンネルを設定して受信機に合わせます。受信機の音声LEDが点灯します。



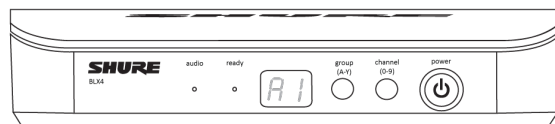
追加システムを設定する場合は、最初の送信機と受信機をオンにした状態にしてください。各追加受信機ごとに、グループを手動で設定して最初の受信機に合わせてください。注記：受信機は自動的にチャンネルスキャンを実行し、グループを選択したら利用可能な周波数を検出します。送信機周波数を設定して受信機に一致させます。

4. 音が小さすぎる場合や歪む場合は、ゲインを適宜調整してください。



機能

フロントパネル



BLX4



BLX88

① audio LED

入力音声信号の強度を示します。緑が正常で赤が超過です。

② ready LED

緑色の点灯は、システムが使用できる状態で、送信機の信号を受信していることを示します。

③ LEDディスプレイ

グループ及びチャンネル設定を表示します。

④ groupおよびchannelボタン

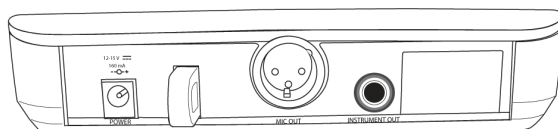
スキャン：グループボタンを押して放し、空きグループおよび空きチャンネルをスキャンします。

マニュアル：groupボタンを長押しし、グループを選択します。チャンネルボタンを押して、現在のグループ中でチャンネルを選択します。

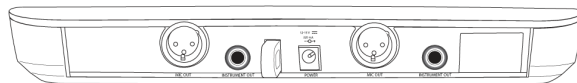
⑤ powerボタン

長押しして電源をオン/オフします。

背面パネル



BLX4



BLX88

- ① DC電源ジャック
- ② アダプターコードの固定
- ③ XLRマイクロホン出力ジャック (MIC out)
- ④ 6.35 mm楽器レベル出力ジャック (instrument out)

BLX1

- ① LEDインジケータ
電源と電池ステータスを表示します (送信機LEDインジケータを参照)。
- ② powerスイッチ
電源のオン/オフを切り替えます。
- ③ 4ピンマイクロホン入力ジャック (TA4コネクタ)
- ④ アンテナ
- ⑤ groupボタン
グループ設定を変更します。
- ⑥ LEDディスプレイ
グループ及びチャンネル設定を表示します。
- ⑦ channelボタン
チャンネル設定を変更します。
- ⑧ 電池コンパートメント
- ⑨ オーディオゲイン調整
回して送信機ゲインを増減します。

BLX2

- ① LEDインジケータ
電源と電池ステータスを表示します (送信機LEDインジケータを参照)。

② powerボタン

押して電源をオン/オフします。

③ groupボタン

グループ設定を変更します。

④ channelボタン

チャンネルとゲイン設定を変更します。

⑤ LEDディスプレイ

グループ及びチャンネル設定を表示します。

⑥ 識別キャップ

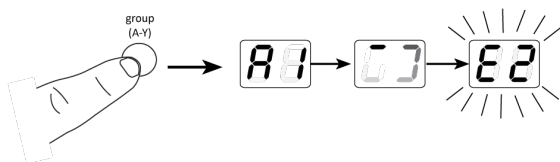
⑦ 電池コンパートメント

送信機LEDインジケータ

LEDインジケータ	ステータス
緑色	Ready
赤色の速い点滅	操作部がロックされている
赤色点灯	電池残量低下 (残り1時間未満*)
赤色に点滅しシャットダウンする	電池切れ (送信機の電源をオンにするには電池を交換してください)

*アルカリ電池専用。充電式電池では、赤色は電池残量がゼロであることを表わします。

単一のシステムセットアップ



開始する前に、すべての送信機の電源を切り、使用中に干渉を起こすおそれのある機器（他のマイクロホン、個人用モニタリングシステム）の電源を入れます。

1. 受信機のgroupボタンを押して放します。

受信機は最もクリアなグループとチャンネルをスキャンします。

注 スキャンを停止する場合は、groupボタンをもう一度押します。

2. 送信機をオンにし、グループとチャンネルを変更して受信機に合わせます（送信機グループとチャンネルを設定するを参照）。

システムを設定したら、音声チェックを行って適宜ゲインを調整します。

送信機グループとチャンネルを設定する

送信機グループとチャンネルは手動で受信機に合わせる必要があります。

グループ (文字)

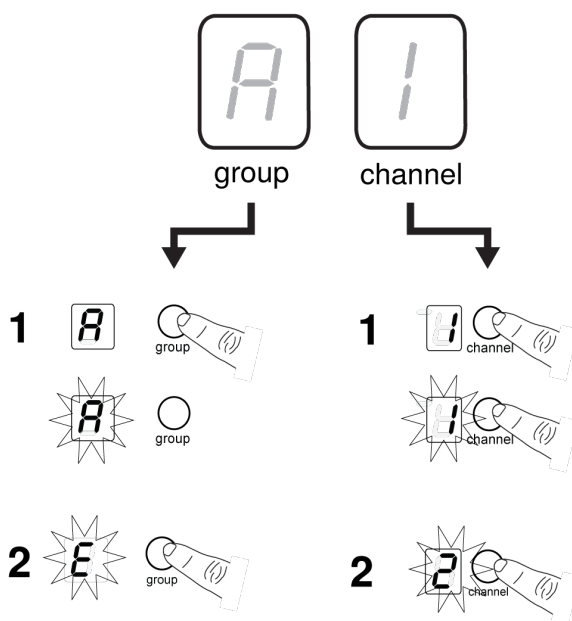
1. 送信機のgroupボタンを押して放し、ディスプレイを起動させます。もう一度groupボタンを押すとディスプレイが点滅します。
2. ディスプレイが点滅している間、もう一度groupボタンを押すと、任意のグループ設定に進むことができます。

チャンネル (番号)

チャンネルを変更する必要がある場合、groupボタンではなくchannelボタンを使って同じ方法を実行します。

注:

- グループとチャンネルが受信機と正しく一致すると、受信機のreadyLEDが点灯します。
- 手動で設定後、送信機は2秒間グループとチャンネル設定を交互に表示します。



複数システムの設定

重要: 一度に1つずつシステムを設定してください。受信機と送信機のグループとチャンネルを合わせたら、送信機の電源をオンのままにします。 そうしないと、他方の受信機からのスキャンを行ったときに、チャンネルが検出されません。 BLX88では、次の受信機に移る前に両送信機を設定してください。

演奏中に干渉を生じる恐れのある他の機器をオンにし、次のステップでチャンネルスキャンを行う際に検出されるようにします。

システム設定を始める前に、すべての受信機をオンにし、すべての送信機をオフにします。

最初の受信機で:

1. グループスキャンを実行します。

最もクリアなチャンネルのグループを検索します。

注記: BLX88では、グループスキャンは同時に両受信機を設定します。

2. 最初の送信機をオンにし、グループとチャンネルを変更して受信機に合わせます。
3. 送信機をオンのままにし、他のシステムについても続けます。

注記: 選択したグループに十分な空きチャンネルがない場合、大きなシステムを設定する際は、手動でグループ「d」を選択します。

受信機を追加するたびに:

1. 手動設定で受信機を最初の受信機のグループ設定に合わせます。グループ設定を変更するたびに、チャンネルスキャンが自動的に行われます。
2. 送信機をオンにし、グループとチャンネルを変更して受信機に合わせます。
3. 送信機をオンのままにし、次のシステムについても続けます。
4. すべての受信機を設定したら、すべてのマイクロホンで音声チェックを実施します。

受信機グループとチャンネルを手動で設定

受信機グループは、複数のシステム設定の一部として変更しなければならない場合があります。

グループ (文字)

1. ディスプレイが点滅を始めるまで、受信機のgroupボタンを押したままにします。
2. ディスプレイが点滅している間、もう一度groupボタンを押すと、次のグループに進みます。

注: 手動設定中はグループ設定のみが表示されます。

3. 必要なグループまで達したら、groupボタンを放します。受信機は自動的にチャンネルスキャンを実行します。

チャンネル (番号)

必ずチャンネルスキャンで選択したチャンネルを使用してください。ただし、必要に応じて、チャンネルを手動で設定することができます。groupの代わりにchannelボタンを使って同じステップを行います。

操作部のロックおよびロック解除

システム操作部をロックし、誤って設定を変更したり電源をオフにしたりするのを防止します。

送信機 (ロック/ロック解除)

送信機の電源をオンにします。groupボタンを押したまま、channelボタンを約2秒間押します。ロックされると、LEDインジケータが速く点滅します。

受信機 (ロック/ロック解除)

受信機の電源をオンにします。groupとchannelボタンを同時に押したままにします。ディスプレイが速く点滅します。

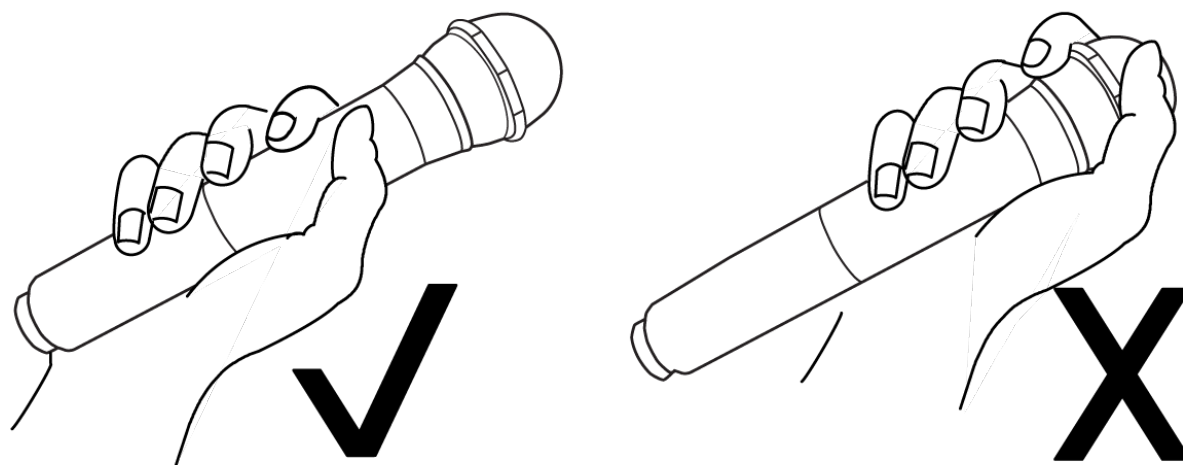
- ロックされているときは、どこかのキーを押すとディスプレイが速く点滅します。
- どちらかの側からロックされると、BLX88は両側がロックされます。

ワイヤレスシステムの性能を向上させるためのヒント

干渉またはドロップアウトが生じる場合は、次の操作を試してください：

- 別の受信機チャンネルを選択する。
- 送信機までの見通し線を遮る障害（観客を含む）がなくなるよう、受信機の場所を変える。
- 送信機と受信機は、金属などの高密度の材質のそばを避ける。
- 受信機を機器のラックの一番上に移動させる。
- 携帯電話、トランシーバー、コンピュータ、音楽・画像プレーヤー、Wi-Fiデバイス、デジタル信号プロセッサといった電波干渉源を遠ざける。
- 送信機の電池を充電するか交換する。
- 送信機同士を2メートル以上離す。
- 送信機と受信機を5メートル以上離す。
- サウンドチェックの際に、問題を生じる位置にテープ等で印をし、プレゼンターまたはパフォーマーにその場所を避けるよう伝える。

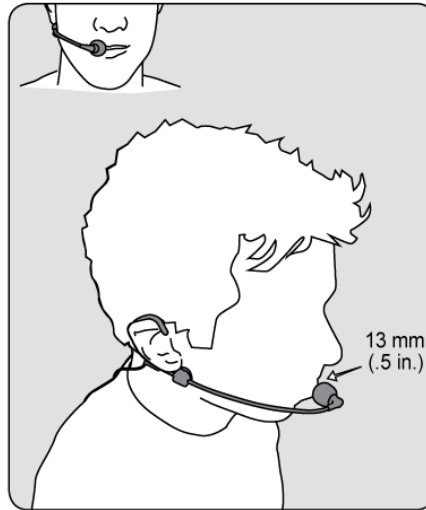
良好なサウンドを得るには マイクロホンの正しい持ち方



- 音源から12インチの範囲内でマイクロホンを持ちます。低域を増した温かみのある音を得るには、さらにマイクロホンを近づけます。
- 手でグリルを覆わないでください。

ヘッドウォーンマイクロホンの装着

- ヘッドウォーンマイクロホンを口の端から13 mmくらいの位置にします。
- ラベリア及びヘッドウォーンマイクロホンが、衣服、宝石、または他の装飾品と当たったり擦れたりしないような位置を選びます。



ゲインの調整

送信機のゲインを設定する際は、受信機のフロントパネルにあるaudioLEDを監視します。

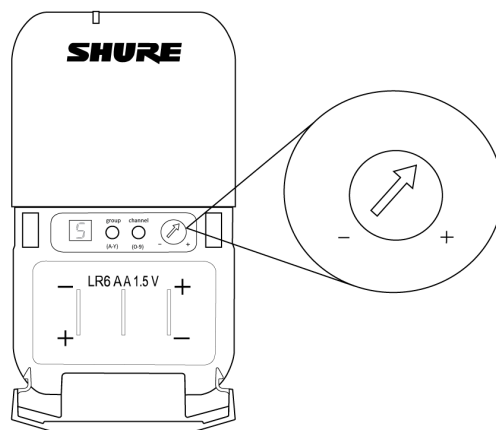
- **緑色:** 正常レベル
- **赤色:** サウンドレベル超過 (オーバーロード)

赤色のLEDは、大声で話したり、音量を上げて楽器を弾いたりした時に限り点灯するはずですが。

BLX1

音声ゲイン調整を回して、希望するレベルが得られるまで、ゲインを増加 (+) または減少 (-) させます。

楽器の場合、ゲインを最小設定にします。ラベリアの場合、ゲインは任意のレベルまで上げます。



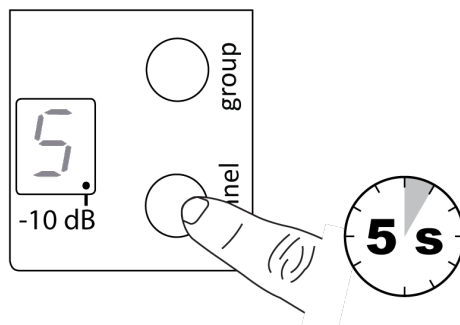
BLX2

BLX2は、ゲインレベル設定が2つあります（デフォルトと減衰 (-10 dB)）。ほとんどの場合、デフォルト設定を使用します。受信機のaudio LEDが赤色点滅になることが頻繁にある場合は、マイクロホンに減衰に設定します。channelボタンを使ってゲイン設定を変更してください。

1. channelボタンを5秒間押したままにします。

ドットがLEDディスプレイの右下に表示され、-10 dBゲイン設定が作動したことを示します。

2. ゲインをデフォルトに戻すには、channelボタンを再度5秒間またはドットが消えるまで押し続けます。



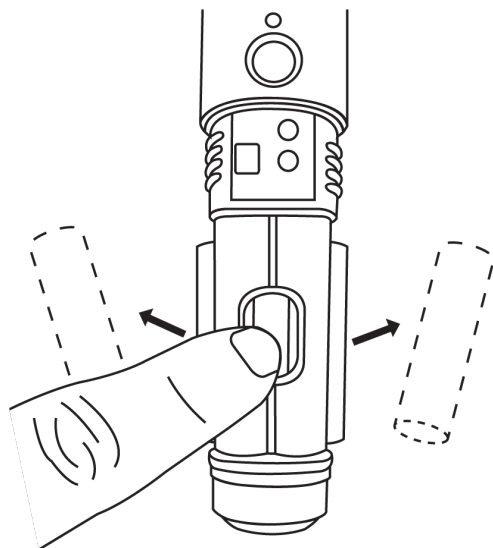
電池

単三型乾電池の予想寿命は14時間です（寿命は電池のタイプとメーカーにより異なります）。

LEDインジケーターが赤色になった場合、「電池残量低下」を示し、残りが約60分であることを表わします。

アルカリ電池専用です。充電式電池では、赤色は電池残量がゼロであることを表わします。

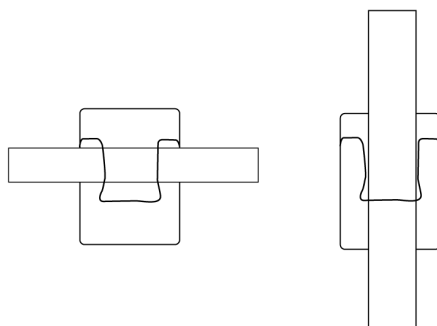
ハンドヘルド型送信機から電池を取り出すには、マイクロホンの電池コンパートメントの開口部から押し出します。



警告：電池パックは直射日光や火などの高熱にさらさないでください。

ボディパック型送信機の取付方法

図のように、送信機をベルトに留めるか、送信機のクリップにギターストラップを通します。確実に固定するために、ベルトをクリップの奥まで押し込んでください。



電源オフ

powerボタンを押したままにしてBLX2またはBLX4/88をオフにします。BLX1をオフにするには、電源切り替えスイッチをオフにスライドします。

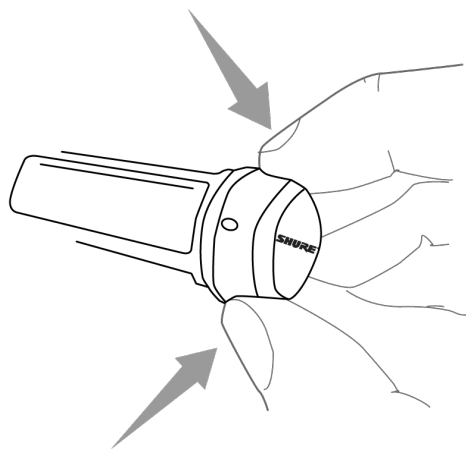
識別キャップの取り外しと取り付け

BLX2には工場出荷時に黒色の識別キャップが付属しています（デュアルボーカルシステムはさらに灰色のキャップが付いています）。

取り外し方法: 電池カバーを外します。側面を押してキャップを引き出します。

取り付け方法: キャップを合わせカチっとはめます。電池のカバーを取り付けます。

色分けされたキャップが付属する識別キャップキットは、別売アクセサリとして販売されています。



トラブルシューティング

問題	インジケータの状態	解決策
音が聞こえない、またはかすかに音がする	受信機のreadyLEDがオン	すべてのサウンドシステムの接続を確認するか、必要に応じてゲインを調整する (ゲインの調整を参照) 受信機がミキサー/アンプに接続されているか確認する
	受信機のreadyLEDがオフ	送信機の電源をオンにする 電池が正しく入れられているか確認する 送信機の設定を行う (単独システムの設定を参照) 新しい電池を入れる
	受信機のLEDスクリーンが消えている	DCアダプターを確実にコンセントに差し込む。 受信機の電源がオンになっていることを確認する。
	送信機のLEDインジケータが赤く点滅している	送信機の電池を交換する (電池の交換を参照)。

問題	インジケータの状態	解決策
音声アーチファクトまたはドロップアウト	レディLEDが点滅している、またはオフ	受信機および送信機を別のグループやチャンネルに変更する。 RF干渉の原因を特定し、干渉源をシャットダウンするか取り除く。 送信機の電池を交換する。 受信機と送信機がシステムパラメーター内に設置されているか確認する。 システムは必ず推奨レンジ内に設定し、受信機は必ず金属面から離すこと。 最適なサウンドを得るためには送信機を受信機からの見通し線に設置する必要がある
歪み	受信機の音声LEDがオーバーロードを表示 (赤)	送信機のゲインを減らす (ゲインの調整を参照)。
別の音源に切り替える際にサウンドレベルが変化する	N/A	必要に応じて送信機のゲインを調整する (ゲインの調整を参照)。
受信機/送信機がオフにならない	LED/ディスプレイが速く点滅	コントロールのロックおよびロック解除を参照。

仕様

システム

到達距離

91 m (300 ft) 見通し線上の配置にて

周波数特性

50 ~ 15,000 Hz

THD (全高周波歪率)

Ref. ± 33 kHz 偏移、トーン 1 kHz

0.5%, 標準

ダイナミックレンジ

100dB, Aウェイト, 標準

使用温度範囲

-18°C (0°F) ~ 57°C (135°F)

極性

マイクロホンのダイヤフラムへの正の圧力 (またはWA302フォンプラグのチップ端子への正電圧の適用) により、2番ピン (ローインピーダンス出力の3番ピンに対して) およびハイインピーダンス1/4インチ出力のチップ端子に正電圧が生成されます。

BLX1

オーディオ入力レベル

max	-16 dBV最大
min (0 dB)	+10 dBV最大

ゲイン調整範囲

26dB

入力インピーダンス

1 MΩ

RF送信機の出力

10 mW, 標準

寸法

4.33 インチ X 2.52 インチ X 0.83 インチ (110 mm X 64 mm X 21 mm) 高さ×幅×奥行き

質量

2.6 オンス (75 g), 電池除く

外装

成形ABS

使用電源

2 LR6 単三電池, 1.5 V, アルカリ乾電池

電池寿命

最大 14 時間 (アルカリ乾電池)

BLX2

オーディオ入力レベル

0dB	-20 dBV最大
-10dB	-10 dBV最大

ゲイン調整範囲

10dB

RF送信機の出力

10 mW, 標準

寸法

8.82 インチ X 2.09 インチ (224 mm X 53 mm) 長さ x 直径

質量

7.7 オンス (218 g) 電池除く

外装

成形ABS

使用電源

2 LR6 単三電池, 1.5 V, アルカリ乾電池

電池寿命

最大 14 時間 (アルカリ乾電池)

BLX4

出力インピーダンス

XLRコネクタ	200 Ω
6.35 mm フォーンジャック	50 Ω

オーディオ出力レベル

Ref. ±33 kHz 偏移, トーン 1 kHz

XLRコネクタ	-27 dBV (100 kΩ 負荷へ)
6.35 mm フォーンジャック	-13 dBV (100 kΩ 負荷へ)

RF 感度

-105 dBm

12 dB SINAD 用, 標準

イメージ抑圧比

>50 dB, 標準

寸法

1.57 インチ X 7.40 インチ X 4.06 インチ (40 mm X 188 mm X 103 mm) 高さ×幅×奥行き

質量

8.5 オンス (241 g)

外装

成形ABS

使用電源

12~15 V DC @ 235 mA (BLX88, 320 mA), 外部電源により供給 (チッププラス)

BLX88

出力インピーダンス

XLRコネクタ	200 Ω
6.35 mm フォーンジャック	50 Ω

オーディオ出力レベル

Ref. ± 33 kHz 偏移、トーン 1 kHz

XLRコネクタ	-27 dBV (100 k Ω 負荷へ)
6.35 mmフォンジャック	-13 dBV (100 k Ω 負荷へ)

RF 感度

-105 dBm

12 dB SINAD用, 標準

イメージ抑圧比

>50 dB, 標準

寸法

1.50 インチ X 12.13 インチ X 3.98 インチ (38 mm X 308 mm X 101 mm) 高さ×幅×奥行き

質量

15.1 オンス (429 g)

外装

成形ABS

使用電源

12~15 V DC @ 235 mA (BLX88, 320 mA), 外部電源により供給 (チッププラス)

認証

- DD4BLX1A, DD4BLX1B, DD4BLX1C, DD4BLX1D; DD4BLX2A, DD4BLX2B, DD4BLX2C, DD4BLX2D, DD4BLX1W, DD4BLX1S, DD4BLX2W, DD4BLX2S, DD4BLX1H11, DD4BLX2H11, DD4BLX1J11, DD4BLX2J11
- 616A-BLX1A, 616A-BLX1B, 616A-BLX1C, 616A-BLX1D; 616A-BLX2A, 616A-BLX2B, 616A-BLX2C, 616A-BLX2D, 616A-BLX1H11, 616A-BLX2H11, 616A-BLX1J11, 616A-BLX2J11
- 616A-BLX1W, 616A-BLX1S, 616A-BLX2W, 616A-BLX2S

FCC規則第15章の適合宣言 (DoC) 規定による承認取得。

重要な製品情報

ライセンスについて

免許：本機器操作の際、行政上の免許が特定の地域で要求される場合があります。必要条件の有無については国内当局にお問い合わせください。書面によるShure Incorporatedの承認を得ることなく本機器の変更・改造を行った場合、装置を使用する権利が無効となる場合があります。Shureワイヤレスマイクロホン装置の免許取得は使用者の責任であり、免許の取得は使用者の区分とアプリケーション、周波数によって異なります。周波数の選択と購入の前に、適正な免許に関する情報を得るために監督機関にお問い合わせになることを強くおすすめいたします。

Information to the user

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause interference.
2. This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

産業のカナダICES-003コンプライアンスレベル：CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

注: EMC適合性試験は同梱および推奨のケーブル使用に基づきます。別種のケーブルを使用した場合はEMC性能が低下する可能性があります。

メーカーによって適合性が書面で認可されたもの以外の変更・改造を本機器に加えると、ユーザーの装置を使用する権利が無効となる場合があります。

周波数帯域および送信機出力

帯域	範囲	送信機出力
G18	470 ~ 494 MHz	10 mW
H8	518 ~ 542 MHz	10 mW
H8E	518 ~ 542 MHz	10 mW
H9	512 ~ 542 MHz	10 mW
H10	542 ~ 572 MHz	10 mW
H10E	542 ~ 572 MHz	10 mW
H11	572 ~ 596 MHz	10 mW
H62	518 ~ 530 MHz	10 mW
J10	584 ~ 608 MHz	10 mW

帯域	範囲	送信機出力
J11	596 ~ 616 MHz	10 mW
K3E	606 ~ 630 MHz	10 mW
K12	614 ~ 638 MHz	10 mW
K14	614 ~ 638 MHz	10 mW
L27	674 ~ 698 MHz	10 mW
M15	662 ~ 686 MHz	10 mW
M17	662 ~ 686 MHz	10 mW
M18	694 ~ 703 MHz	10 mW
M19	694 ~ 703	10 mW
Q12	748 ~ 758	10 mW
Q24	748 ~ 758 MHz	10 mW
Q25	742 ~ 766 MHz	10 mW
R12	794 ~ 806 MHz	10 mW
S8	823 ~ 832 MHz	10 mW
T11	863 ~ 865 MHz	10 mW

*

注：周波数帯域は、すべての国や地域で売却または使用の承認が行われるとは限りません。

注：本無線機器は、業務用の音楽エンターテインメントおよびそれに類する用途に使用するためのものです。本無線機器はご使用の地域で認可されていない周波数で操作できる場合があります。国内の関連機関にお問い合わせいただきワイヤレスマイクロホン製品の認可周波数と電波出力レベルの情報をご確認ください。

* เครื่องโทรคมนาคมและอุปกรณ์นี้มีความสอดคล้องตามมาตรฐานหรือข้อกำหนดทางเทคนิคของ กสทช.